

世代をつなぎ 海とまちをつなぐ ～にぎわいと防災の実現～

まちづくりの視点

1. まちづくり構想では、世代をつなぐ視点から、小中高生の参加による取り組みを行っていきます。(西郷小学校での話し合い、高校生チャレンジショップなど)
2. まちの空間的な構造は、海から「ターミナルエリア」「みち」「川」「台地」と続いています。中町・西町・港町・東町はそれぞれ台地を背にしているため、他のまちとの連携をとりにくい状況があります。平成30年度に開催した「まちづくり談義」では、海とまちをつなぐことでまちの魅力が見えてくると考え、台地をランドマーク(地域の目印)として「にぎわいづくり」と「災害時の避難(防災)」に繋がっていきます。

海とまちをつなぎ
台地を囲む範囲を
構想範囲とします

ターミナルエリア 玄関口に人が集い、海とまちをつなぐ起点であるターミナルの魅力高めるためには、まちの結節点としての整備、ポートプラザやターミナルの活用、高校生によるチャレンジショップなど、まちをつなぐことでにぎわいを創出します。

みち 歩いて楽しいみちを目指し、周遊できるみちとして統一感を大切にします。「みち」や「坂」に名前をつけ、日頃からウォーキングコースとして活用することで、いざという時の避難路としても活躍します。特に西郷小学校の通学路である坂の名前は小学生も命名に参加します。

川 川を楽しめるよう八尾川沿いの環境整備や景観を楽しむスポット整備、宇屋川の浄化や河口部の親水スポットの活用、愛の橋の架け替えを行います。川沿いの景色を楽しむようにすることで、まちの魅力アップにつなげます。

台地 台地に名前をつけることや樹木管理を行うことで、日頃から台地に親しみを持ち、避難の場としての認識を共有することで、世代を超えて台地を地域とつなげます。

構想の対象範囲全体 まちの魅力アップのため、空き店舗や空き家の活用、広場の活用などで住環境の整備を行います。また、防災の視点から空き家除去、対象範囲全体の避難訓練により、それぞれのまちをつなげます。

